

第11回平和首長会議国内加盟都市会議総会総括文書

平和首長会議は、昭和57年（1982年）の設立以来、世界の都市と連帯し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を訴え続けてきた。平和首長会議には、現在世界の166の国・地域から8,311の都市が加盟しており、その数は増加の一途をたどっている。そのうち、日本国内の加盟都市は全市区町村の99.9%に当たる1,739に達しており、第11回目となる平和首長会議国内加盟都市会議総会を令和5年（2023年）10月18日及び19日の2日間兵庫県姫路市で開催した。

初日は、姫路市プログラム「ピース フロム ひめじ」として、姫路市立城西小学校マーチングバンドによる演奏、姫路市プロモーション動画上映、姫路市の平和への取組発表、姫路空襲体験談講話、平和教育の取組発表、平和作文の朗読、中高生による「交響詩ひめじ第4章栄光の世紀へ」の合唱、黙想等が行われた。

2日目は、まず世田谷区長、藤沢市副市長、北九州市平和のまちミュージアム館長及び英国・マンチェスター市長から平和に関する取組事例の報告を受けた。

続いて、核兵器廃絶に向けた日本政府に対する要請文の提出について審議・決定した。

また、加盟都市へのアンケートに基づき、平和首長会議としての各都市に対する「6項目の支援方策」について事務局から説明を行った。さらに、それを受けて、基礎自治体の平和文化振興に対する地方財政措置に関する要望文の提出について審議・決定した。

以上のことに加え、次の事項について事務局から報告を行った。

- ① 平和首長会議メンバーシップ納付金令和4年度決算について
- ② 第12回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催都市について

平和首長会議メンバーシップ納付金については、納付率の向上に取り組んでいくことを確認した。

最後に、私たちは、核兵器を廃絶し、戦争のない平和な世界を実現するため、加盟都市を着実に拡大し、共に行動していくことをここに宣言する。

令和5年（2023年）10月19日
第11回平和首長会議国内加盟都市会議総会